

<真剣味>72

2017. 4. 21

『今まで参加したことのない大会に参加する』

春季大会前の遠征・合宿すべて終了！

4月8日（土）、9日（日）は三川合宿を行いました。8日（土）には大会前最後の練習試合を3試合行い、何度かある攻撃のチャンスを生かしながら粘ることができるようになり、これも江南らしさと思うようになりました。ただ、その逆もあり、相手の攻撃を止められない部分も残っています。バッテリー、内野・外野、キャプテン、ゲームリーダー、それぞれの担当がもっと考えてプレーしていく必要があるように思われました。

9日（日）は雨のためグラウンドでの練習ができず、とても残念でした。しかし、隣接した体育館で出来る課題練習を行うことができました。この2日間を通して、少し頑張りが見えた下級生がありました。いくらいいものを持っていても「自らその気に」ならない限り伸びるものではありません。自分のため、チームのためと思って今までの自分を越えてくれれば、大きく化ける人は沢山います。ただ、感じ取ることができるか、そして行動に移せるか。その辺が大切になってきます。

●どのような状態になると人は「これではいけない。」と感じ、本当に頑張れるのか。2年生の彼は守備では能力を発揮している。そして試合に出ることも多い。だから期待も大きい。でも、まだまだ殻を破れていない。練習中につねに声を出すこと。同学年に対して、あるいは全体に対して声が出ててくるとプレーに大きな変化が見えてくると思います。

しかし、9日の室内での練習の際、羽打ちで逆方向へ打つ勝負をしていた時、上級生に一本差で敗れたがその時の表情は今までにない感じでした。最後の最後まで諦めず、淡々と行うことが成果にも繋がる。この辺のことを指導しました。

気持ちが変われば、取組が変わる。取組が変われば、結果も変わる。結果が変われば、習慣も変わる。彼が大きく成長するためには、「あの一本の差を心に秘めて」今後の練習に打ち込んでもらいたい。

●人は成長するため、どこかで勇気を出して主張しなければいけない時がある。2年生の彼は運動能力に優れ、肩が強くスピードもある。ただそれが練習や試合の際に十分に力が発揮されていないように思われます。指導者から「今のプレーについて確認」しても、はっきり返答されない時があります。ミスしてもいいが自分ではっきり主張できる力をつけてもらいたい。その力が練習や試合での自分の力として発揮されるはずです。待っているだけではなく、自分から道を切り開いていきましょう。少しの勇気を出すことでちょっと変わるはずです。この繰り返しで、いつかBIGになります。

その彼が合宿2日目の朝、突然私の所へ来て、今のポジション以外に「投手も」やらせてください。と話をできました。私としてはビックリでした。でも指導者としてはとても嬉しい行動でした。この気持ちを忘れず、野球に取り組んでもらいたい。

●自分の専門のポジションではないが、ランナーコーチとして頑張っている。2年生の彼らは、自分のスキルを生かし、ランナーコーチとして試合に入り込んでいる。声の大きさ、冷静な判断力、大きなシグナル。この点が優れ、チームの得点に貢献している。本当によく頑張ってくれています。

〈春季大会に臨むに当たって〉

- ①腹をくくり、やってきたことを淡々と取り組む。
- ②1つ目の勝ちは、そうは簡単ではないでしょう。でも最後の最後まで諦めず、粘る。
- ③心は熱く、でも頭は冷静に。
- ④何が起こっても我慢する。そして3回のチャンスを生かし、よりBIGにする。
- ⑤投手は打たれたらどうしようなどと「結果を考え過ぎず」、捕手と相談して、コースに切れのあるボールを投げ込む。（その勇気を持つ）